

昆明・モントリオール生物多様性枠組(GBF)



2022年12月に開催された生物多様性条約第15回締約国会議で採択た

2020年までの国際目標であった愛知目標に代わる、2021年以降の新たな国際目標

「2030年までに生物多様性の損失を食い止め、回復傾向へ向かわせる(halt and reverse biodiversity loss)」

1. 生物多様性への脅威の削減

ターゲット1空間計画の設定

ターゲット2自然再生

ターゲット**3**30by30

ターゲット4種・遺伝子の保全

ターゲット5生物採取の適正化

ターゲット6外来種対策

ターゲット7汚染防止・削減

ターゲット8気候変動対策

2. 持続可能な利用と利益配分を通じて 人々のニーズを満たすこと

ターゲット9野生種の持続可能な利用

ターゲット10農林漁業の持続的管理

ターゲット11自然の調節機能の活用

ターゲット12緑地親水空間の確保

ターゲット13遺伝資源へのアクセスと

利益配分(ABS)

3. 実施と主流化のためのツールと解決策

ターゲット14生物多様性の主流化

ターゲット15ビジネスの影響評価・開示

ターゲット16持続可能な消費

ターゲット17バイオセーフティー

ターゲット18有害補助金の特定・見直し

ターゲット19資金の動員

ターゲット20能力構築、技術移転

ターゲット21知識へのアクセス強化

ターゲット22女性、若者及び先住民の参 画確保

ターゲット23ジェンダー平等の確保 **2**

昆明・モントリオール生物多様性枠組(GBF)



Disclosure - TARGET 15

生物多様性への負の影響を徐々に低減し、ビジネス及び金融機関への生物多様性関連リスクを減らすとともに、持続可能な生産様式を確保するための行動を推進するために、ビジネスに対し以下の事項を奨励してできるようにしつつ、特に大企業や多国籍企業、金融機関については確実に行わせるために、法律上、行政上、又は政策上の措置を講じる:

- (a)生物多様性に係るリスク、生物多様性への依存及び影響を定期的にモニタリングし、評価し、透明性をもって開示すること。すべての大企業並びに多国籍企業、金融機関については、業務、サプライチェーン、バリューチェーン、ポートフォリオにわたって実施することを要件とする;
- (b)持続可能な消費様式を推進するために消費者に必要な情報を提供すること;
- (c)該当する場合は、アクセスと利益配分の規則や措置の遵守状況について報告すること。

TNFDの目的

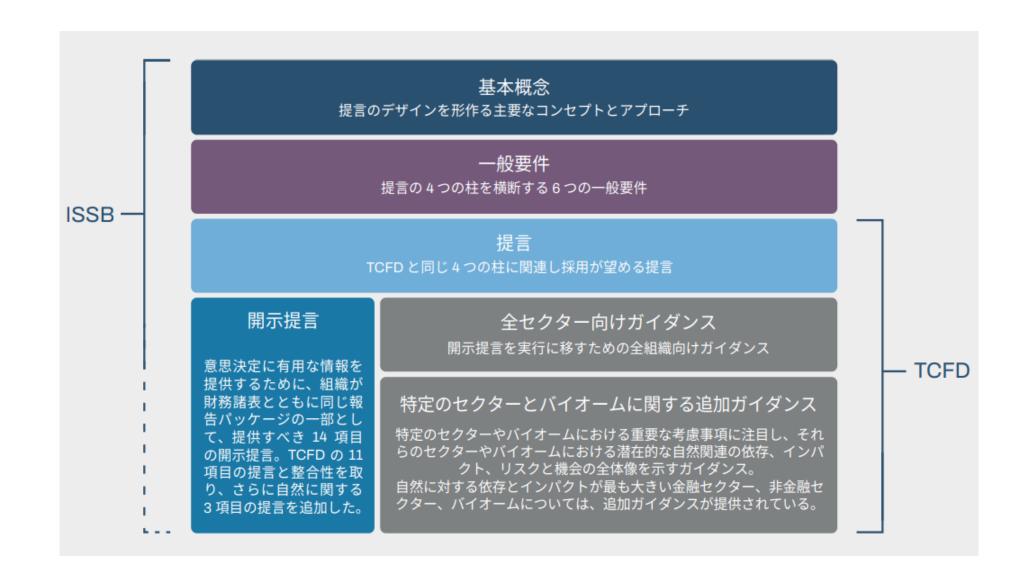


ネイチャーネガティブに向かう金融の流れを ネイチャーポジティブに向けての資金の流れ に変えるための情報開示フレームの提供



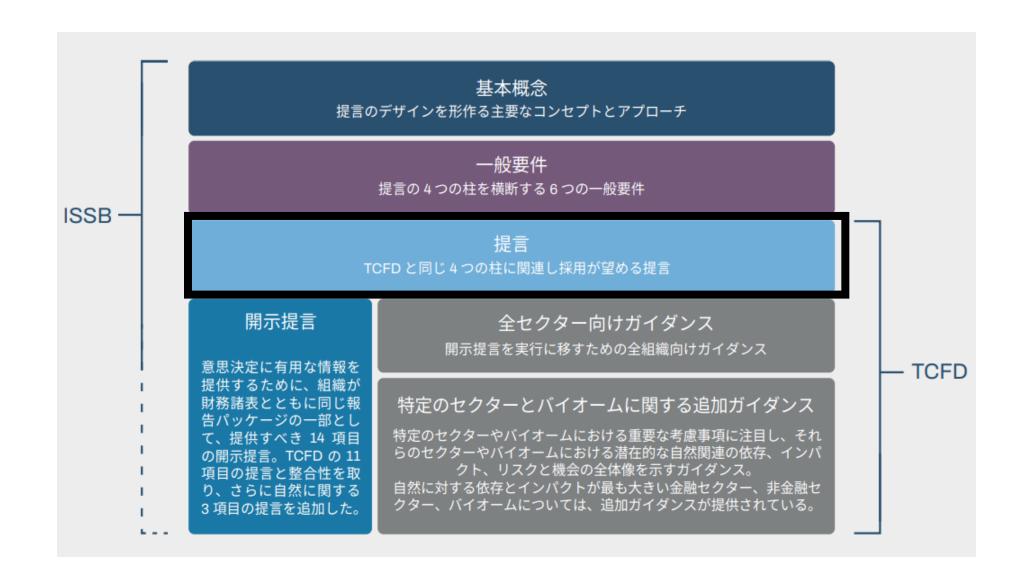
TNFDの提言のアーキテクチャー





TNFDの提言のアーキテクチャー





TNFDの開示推奨内容



TNFD 開示の内容:

4つの柱

14の開示推奨項目

依存・インパクトの分析

「依存、インパクト」 が含まれる項目

- ・4つの柱:4/4
- ・開示推奨項目: 10/14

自然関連の依存・インパクト の分析がTNFD開示の要

ガバナンス

自然関連の依存、インパクト、リスクと機会の組織に よるガバナンスの開示。

戦略

自然関連の依存、インパクト、リスクと機会が、組織 のビジネスモデル、戦略、 財務計画に与えるインパクトについて、そのような情報が重要である場合は開示 する。

リスクとインパクトの管理

組織が自然関連の依存、イ ンパクト、リスクと機会を 特定し、評価し、優先順位 付けし、監視するために使 用しているプロセスを説明 する。

測定指標とターゲット

マテリアルな自然関連の依 存、インパクト、リスクと 機会を評価し、管理するた めに使用している測定指標 とターゲットを開示する。

開示提言

- A. 自然関連の依存、インパ クト、リスクと機会に関す る取締役会の監督について 説明する。
- B. 自然関連の依存、インパ クト、リスクと機会の評価 と管理における経営者の役 割について説明する。

開示提言

- A. 組織が特定した自然関連 の依存、インパクト、リス クと機会を短期、中期、長 期ごとに説明する。
- B. 自然関連の依存、インパクト、リスクと機会が、組織のビジネスモデル、バリューチェーン、戦略、財務計画に与えたインパクト、および移行計画や分析について説明する。
- C. 自然関連のリスクと機会 に対する組織の戦略のレジ リエンスについて、さまざ まなシナリオを考慮して説 明する。
- D. 組織の直接操業において、 および可能な場合は上流と 下流のバリューチェーンに おいて、優先地域に関する 基準を満たす資産および/ または活動がある地域を開 示する。

開示提言

A(i) 直接操業における自然 関連の依存、インパクト、 リスクと機会を特定し、評 価し、優先順位付けするた めの組織のプロセスを説明 する。

- A(ii) 上流と下流のパリュー チェーンにおける自然関連 の依存、インパクト、リス クと機会を特定し、評価し、 優先順位付けするための組 織のプロセスを説明する。
- B. 自然関連の依存、インパ クト、リスクと機会を管理 するための組織のプロセス を説明する。
- C. 自然関連リスクの特定、 評価、管理のプロセスが、 組織全体のリスク管理にど のように組み込まれている かについて説明する。

開示提言

- A. 組織が戦略およびリスク 管理プロセスに沿って、マ テリアルな自然関連リスク と機会を評価し、管理する ために使用している測定指 標を開示する。
- B. 自然に対する依存とイン パクトを評価し、管理する ために組織が使用している 測定指標を開示する。
- C. 組織が自然関連の依存、 インパクト、リスクと機会 を管理するために使用して いるターゲットと目標、そ れらと照合した組織のパ フォーマンスを記載する。

食品・農業セクターにおける依存と影響の特定



依存

ビジネスの継続のために依存している環境や生態系サービス

例:加工食品を扱う会社はパームオイルを利用。パームオイルを利用する企業は、アブラヤシ、受粉に必要な昆虫、加えて降水、流域の水などに依存

影響(インパクト)

ビジネス活動により変化する自然の状態

例:パームオイルを扱う企業はその生産のために、森林の開拓、水源の枯渇など 自然の状態を変化させている可能性がある

LEAPアプローチ





組織の潜在的な自然関連の依存、インパクト、リスクと機会に関する仮説を立て、LEAP 評価のパラメータを定義し、マネジャーと評価 チームの間で目標とスケジュールの整合性が取れていることを確認するために、内部・外部のデータと参考情報源を素早くハイレベルで事 前調査すること。

作業仮説を立てる

マテリアルな自然関連の依存、インパクト、リスクと機会がありそうな組織の活動は何か?

目標と資源との整合性をとっていく

組織内の能力、スキル、データの現在のレベル、および組織の目標を考慮した上で、評価を実施するために、どのような資源(財務、人材、データ)の検討と時間配分が必要とされ、同意されているか?

見直しと

反復

自然との接点の 発見

ビジネスモデルと バリューチェーンの範囲

セクター別、バリューチェーン別の組織の活動は何 か?直接操業はどこにあるか?

L2 依存とインパクトの スクリーニング

これらのセクター、パリューチェーン、直接操業のうち、自然に対する潜在的に中~高程度の依存とインパクトを伴うものはどれか?

L3 自然との接点

潜在的に中~高程度の依存とインパクトを伴うセク ター、パリューチェーン、直接操業はどこにあるか? 直接操業および依存とインパクトが中~高程度のパ リューチェーンとセクターは、どのようなパイオーム や特定の主態系と接点を持っているか?

L4 要注意地域との接点

組織の活動で、パリューチェーンやセクターへの依存 やインパクトが中~高程度で、生態学的な要注意地域 にあるものはどれか?また、直接操業のうち、どれが このような要注意地域にあるか? 依存とインパクトの 診断

E1 環境資産、生態系サービス、 インパクト要因の特定

分析対象となるセクター、ビジネスプロセス、活動は何 か?どのような環境資産、生態系サービス、インパクト 要因が、これらのセクター、ビジネスプロセス、活動、 評価地域に関連しているか?

E2 依存とインパクトの特定

自然に対する依存とインパクトは何か?

E3 依存とインパクトの測定

自然に対する依存の規模とスコープは?

私たちが自然に与えるマイナスの影響の深刻さは**どの** 程度か?私たちが自然に与えるブラスのインパクトの 規模とスコープは?

E4 インパクトの マテリアリティの評価

とのインパクトがマテリアルか?

リスクと機会の評価

A1 リスクと機会の特定

組織にとってのリスクと機会は何か?

A2 既存のリスク緩和および リスクと機会の管理の調整

既存のリスク緩和およびリスクと機会の管理プロセス で、すでに適用されているものは何か?

リスクと機会の管理プロセスと関連要素(リスク分類 法、リスク目録、リスク選好度など)をどのように適 合させるか?

A3 リスクと機会の 測定と優先順位付け

どのリスクと機会を優先するべきか?

A4 リスクと機会の マテリアリティの評価

どのリスクや機会がマテリアルで、したがって TNFD の開示提言に沿って開示する必要があるか?

P1 戦略と資源配分計画

この分析の結果、**どのよう**なリスク管理、戦略とリ ソース配分の決定を下すべきか?

対応し報告するための

P2 ターゲット設定と パフォーマンス管理

どのようにターゲットを設定し、進捗を定義し、測 定するか?

P3 報告

TNFD開示提言に沿って、何を情報開示するか?

P4 表示

自然関連の開示をどこに、どのように表示するか?

見直しと反復

先住民族、地域社会と影響を受けるステークホルダーとのエンゲージメント

シナリオ分析

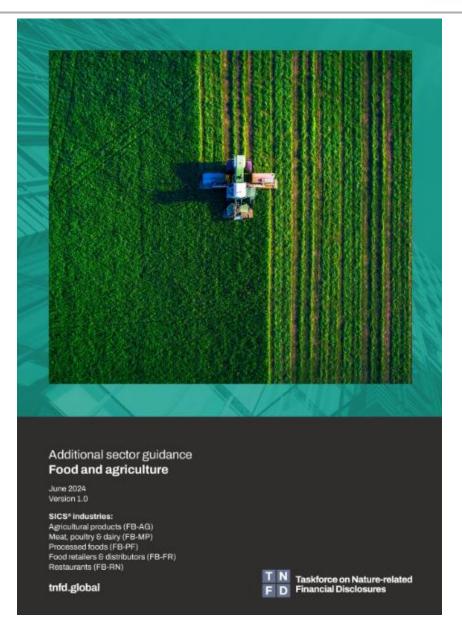
Food and Agriculture セクターガイダンス



対象業種

- 農産物
- 食肉、鶏肉、乳製品
- 加工食品
- 食品小売
- 流通業者
- レストラン (セクターガイダンスP.6)

以下のスライド()内のページはFood and Agriculture セクターガイダンスの参照ページ



食品・農業セクターにおける依存と影響の特定



バリューチェーンを通じた依存と影響のスクリーニング(L1、L2)

農畜産品は生産段階で自然に依存・影響が大きい

- 1. 主要な農畜産品のリストを作成(生産・調達しているもの)
- 森林破壊リスクのあるバリューチェーンを特定 (参照:SBTNのHigh Impact Commodities List (HICL)、欧州森林破壊防止規則(EUDR))
- 3. <u>バリューチェーン上流のマッピング</u> 各業種が、バリューチェーンマッピングする際に含めるべき項目:

加工食品、食品小売・流通、レストラン業界農産物

肉、家禽(かきん)、乳製品 加工食品および下流産業

肉、家禽、乳製品業界 上記に加え、家畜の飼料もマッピングすべき

(セクターガイダンスP.11-13)

食品・農業セクターにおける依存と影響の特定



自然との接点、要注意地域の特定(L3, L4)

- 農畜産業では農場・農家単位での場所の特定が重要
- サプライヤー農場のGPS座標の特定 (EUDR対応にも)
- 自社バリューチェーン上の要注意地域を確認 (含む直接操業地点) (セクターガイダンスP.19-21)

12